

令和5年度 南檜山地域・職域連携推進連絡会（第2回） 開催結果概要

日時：令和5年11月7日（火）13:30～15:00

場所：江差保健所会議室

出席：11名（うちオンライン1）+保健所4名

【オリエンテーション】

- ・南檜山の課題、今年度の取組みの方向性、前回までの流れについて別紙資料をもとに再確認した。

【議事】

▶各団体における取組みの報告

（1）健診（検診）の普及啓発について

『健診ガイド』の活用状況について、アンケートをもとに事務局より報告。

内容⇒各町別にコンパクトにまとめられ、とても見やすいものである。

年度ごとに記載変更の内容があるので、年に1回は更新が必要。

活用状況⇒配布したが感想を聞くことができていない。はっきりとした効果はなかったように思う。

設置したがほとんど減っていない。設置場所の検討が必要。手に取り見ていたが効果は不明。部数が少なかった、あるいは内容変更があり配布できず未活用。

- ・総じて「効果がはっきりしなかった」という印象。記載内容や形態・配布方法の変更について検討する前に、各構成員が“何が課題なのか、誰に対して何をしなければならないのか”を再認識した上で、媒体をどう活用すべきかを考えなければならないのではないか。

（2）健康教育（高血圧、減塩、メンタル…）の実施増に向けて

各団体で健康教育など実施できたか？健康づくり関連のイベントや、健診勧奨の取り組みできたか？

江差町～これから第2次健康増進計画策定に向けた検討を行う。職域（若い世代）の声を把握したので、11/28の意見交換会に参画してほしい。後ほど個別に声をかけさせてもらう。

上ノ国町～職域の対策まで手が回っておらず、具体的なことは実施できていない。

乙部町～健康教育等の依頼があれば対応できるが、町からの働きかけはできていない。

厚沢部町～森林管理署から健康教育の依頼があった。内容は任せるとのことだったので、メンタルヘルスをテーマに実施した。

JA厚沢部～今年の巡回ドックは委託先の都合で10月上旬の実施になった。農繁期が重なり、受診者が少ない結果となった。健診に来てくれば役場の保健師につなぐことはできている。

職員の健診は、委託先保健師との面談や精密検査の働きかけまで手厚く対応できている。

労基署～制度改正等があればその都度周知している。健康管理については情報提供していない。

建設協会～『健診ガイド』を増刷できれば、協会内の会議で活用したい。今年の夏は非常に暑かったため、熱中症をテーマに講習会を開催し、50名強の参加があった。

道立病院～健診の実施機関となるため、健診勧奨はできていない。南檜山は生活習慣病の患者が多い。“健診を受けて終わり”、“受診しているから大丈夫”ではなく、生活習慣改善のための意識改革が必要と考える。

医師会～取り組みなし。

看護協会～取り組みなし。

（3）新団体の参画について

- ・各町単位の漁協や商工会、食生活改善協議会、振興局職員厚生担当や、住民のデータを持っている協会けんぽや国保連合会などの協力についても意見があったが、まずは各構成員が当地域の課題を

共通認識し、主体的に取り組む意思がないと、新たな団体を参集しても対策は進んでいかないと考える。

▶職域保健における課題や成果に関する意見交換

R5の方向性として、①健診を受けていない層へのアプローチ（小規模事業者、被扶養者等）、②圏域特有の健康課題対策（高血圧、糖尿病）、③地域側と職域側の課題共有、を掲げてきたが、上述のようになかなか対策が進んでいない。

“何もやっていない”をなくしていきたい。各団体では何を意識し、取り組んでいるか？

JA厚沢部～町保健師と管理栄養士が健診結果説明を行っているため、顔見知りになり相談しやすい関係性を築くことができている。町とJA間でも健診時期などの情報交換がしやすい。以前は江差町でも役場の保健師が結果説明を実施していたと聞いたことがある。江差・上ノ国・乙部は組合員各100人程度と思われる。

江差町～今のJAの健診と町の健診では内容が異なるのではないかと。現在、農家の方がどれくらい健診を受けているのかもわからない。高齢化により後期高齢の方が多くなっている。

建設協会～コロナで停滞していた産保センターとの連携を再構築したい。

道立病院～年1回でもこのように顔を合わせて話すことで、こちら側の意識統一を図ることができるため、このような機会は定期的に必要なと思う。また、病院受診しているからそれで良いと思っている人が多いことは課題。協会けんぽの健診への結果報告にあたり、住んでいる町の健診パンフレット等を入れてもらうことも1つの方法。

上ノ国町～協会けんぽの送付物に、健診案内を同封できると聞いた。活用してみたい。

乙部町～漁協等、個人事業主の状況を把握したい。各職域の担当者の確認からはじめたい。

奥尻町～健康マイレージ事業等、既存事業を活用した取り組みで職域対象者に働きかけたい。

JA厚沢部～『健診ガイド』の一部をピックアップして配布するなど、工夫して活用したい。

労基署～企業等への働きかけは可能だが、経営管理者との関わりが主となるので、個人事業主や被扶養者に対してできることは少ない。

上ノ国町～町の健診を受けに来た事業主に対して、町の健診は受けられないことを伝えたいが、今後どのようにしていけばよいかわからず、伝えられなかった。

道立病院～ライフステージごとに保険が切り替わる場合、引継ぎをスムーズにしていける必要がある。自分がどの保険に属し、どの健診を受けられるのか知らない住民が多いのでは。

▶まとめ

職域保健の対象者は様々な実態を有しているため、すべての対象者に手が届く方策は打ち出せない。この場で決めたことを各団体で推進するより、各団体がまずはできることから取り組むことが実態に即した具体的な方策であり、効果的であると考え。受け身では対策進まないため、自分たちの業務実態に合った対策を主体的に考え、取り組んでほしい。

▶今後の方向性

各団体の取り組みを本連絡会（次回1-2月頃予定）で報告いただくことで、職域対策の動きを活性化したい。本会議への出席には実務担当者も連れてくることも可としたい。その先に、本連絡会での取り組み（普及啓発媒体の作成や研修会の実施など）の具体が見えてくると考える。

➡上記について出席者の了解を得た。

次回までに各団体でできることに取り組んでもらい、会で報告してもらおう。

自組織の取り組みを発表する場を設けることで、各団体の主体性を高めていく。